

元気にあいさつ  
する高校生



東京都立石神井高校の生徒たち。JA かみましき益城支所で講話を聞きます。

2016年  
熊本地震で学んだ  
3つの教訓  
～震度7×2～

自助

自分の身は自分で守ること

共助

自身のみならず、  
互いに助けあうこと

備え

突然の災害に備えて、身を  
守るすべを考えておくこと



講話を担当した吉村静代さん(寺迫)。自身の避難所や仮設住宅での体験から学んだ、自助・共助・備えの大切さを話しました。



真剣に聞き、メモを取る姿も



教育旅行の運営などを担う益城町教育旅行プログラムガイドのメンバー。



堂園地区の断層について説明する、永田忠幸さん(堂園)。谷川地区では、村口省三さん(安永2町内)による説明が行われました。断層の写真は地震直後。



多くの報道機関が取材に

県と(公社)熊本県観光連盟が、地域と連携し取り組む防災・減災学習プログラム「熊本地震から学ぶ教育旅行」の一環として、2月7日、益城町で初となる「2016年熊本地震で学んだ3つの教訓～震度7×2～」が実施されました。

今回、町が受け入れたのは、東京都立石神井高校の生徒(157人)で、講話と断層の説明を通して防災や減災への意識を高めました。

参加した生徒の一人は、「実際に訪れて、初めて自然の脅威を感じました」と話しました。